

神武天臨光下激 鴻臚初唱第一声 白面王郎年十八
神武天臨すれば光は下激す 鴻臚初めて唱う第一声 白面の王郎年十八
神武の天子が臨御され、あたり一面が輝きわたった。進士の合格者の名を呼ぶ者が第一声を上げると、白面の王郎はわずか十八歳。

※昇試随意参考（条幅・半紙）としてご活用下さい。抜粋可。

一字書（三月二十二日締切）

課題

萬

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

今月は昇試課題発表月ですが「一字書」は出品出来ず。推薦取得者始め多くの会員のチャレンジを期待しています。

A

高橋香樹会長書

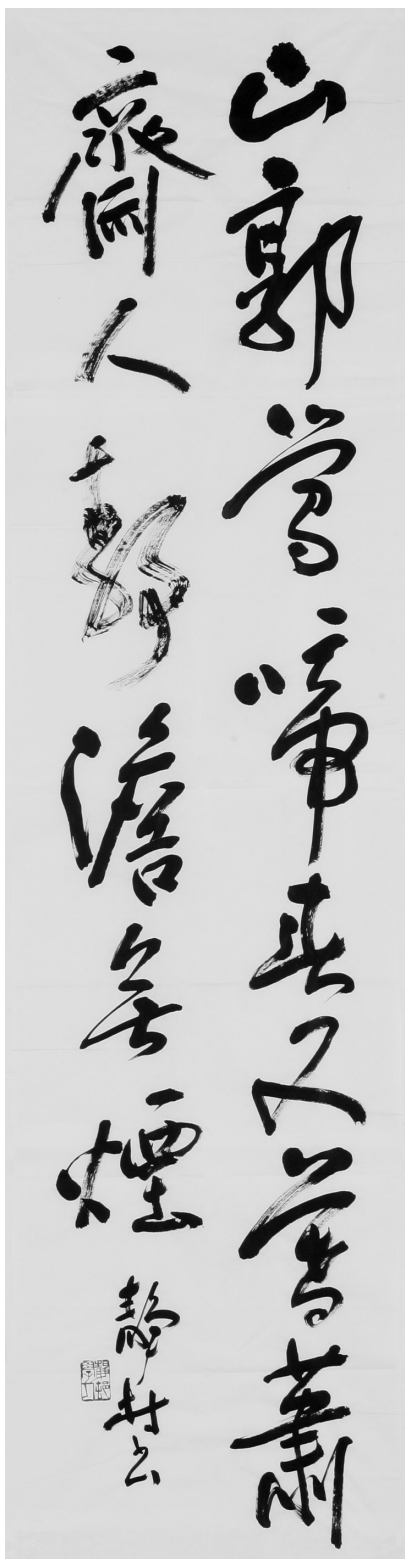
山郭鶯啼春又暮 蕭齋人靜澹無煙 (李約)
山郭鶯啼いて春また暮れ、蕭齋人静かにして澹く煙無し。



B

鈴木静村先生書

条幅では圧倒的に行草書が多い現状ですが、今回は敢えて行書のみとしました。墨もこれまでよりは淡くすることにより、渴筆を少なく、しかも、潤濁の変化を明確にすることができました。「煙」は、篆・隸の形を行書として書いた王鐸の書を用いました。墨継ぎは「暮」と「静」です。



右行には末画のタテ画を有つ「郭・啼」の二文字、暢びやかにのばしたい。左行、繁画の「齋」は行頭で大きく字幅、「静」枯れ木同然で不可。カスしてもどこかに潤いを。鶯、草略体を使ったが、各自字典で調べ、別形使用も奨励。暮、上部を大きくすると安定。蕭、この字体も十種以上多い。字典で確認し間違いなきように。人、小さくして強く。澹、墨継ぎ、どっしりと。煙、末画の点は打たなくても可。
訳：山里に鶯が鳴いて今年の春もまた過ぎ、書齋に淡い光が射し、煙もなく静かである。

予告

(四月二十二日締切)

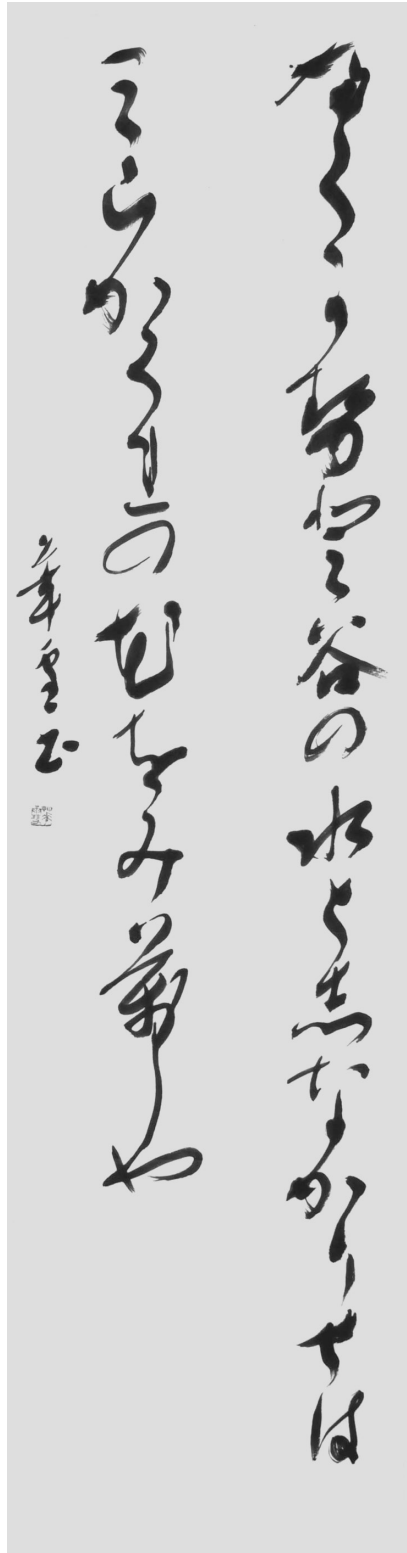
年年歳歳花相似 (劉廷芝)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

A

平岡華雪先生書

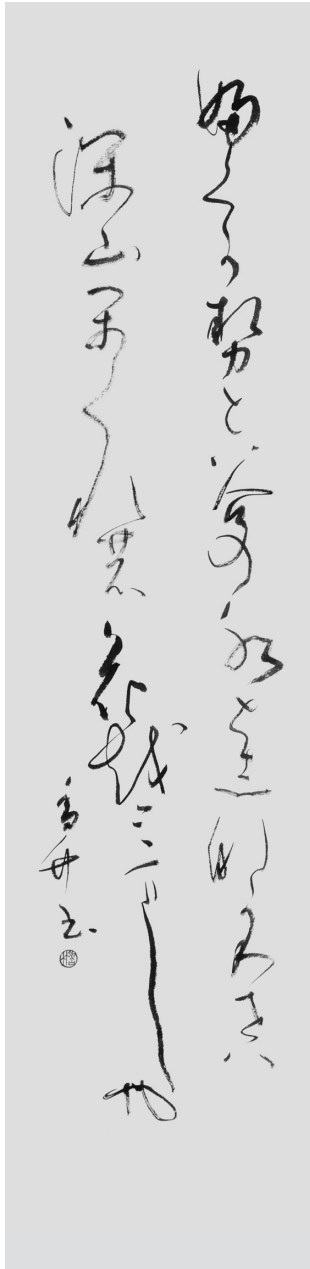
吹風と谷の水としなかりせば深山がくれの花を見ましや (古今和歌集 紀貫之)
 婦久可勢登谷の水と志なかりせば三山か久連の花をみ萬しや



B

青柳香竹先生書

婦久可勢と谷の水と志那可利世八深山閑くれ農花越三万しや



紀貫之
 歌人・能書家。京に上る途中の日記が「土佐日記」である。勅命により、友則・躬恒・忠岑らと勅撰歌集の第一集である「古今和歌集」を撰集。古今集時代を代表する第一人者。三十六歌仙の一人。家集「貫之集」がある。

学び方

起筆は墨を含ませ、太・細で線の変化を、「谷の」「と志」「那可利」は連綿を使用しました。長い連綿は読みにくさにつながります。短い連綿と単体を交えることで流れとリズムを作る方が効果的です。「深山」から渴筆で大きくゆっくり、丁寧な運筆で書きました。粗雑にならないように。「花」で墨を加え、奥行表現をしました。潤濁は作品の表情を出すには大切な要素です。意識して書いてみてください。

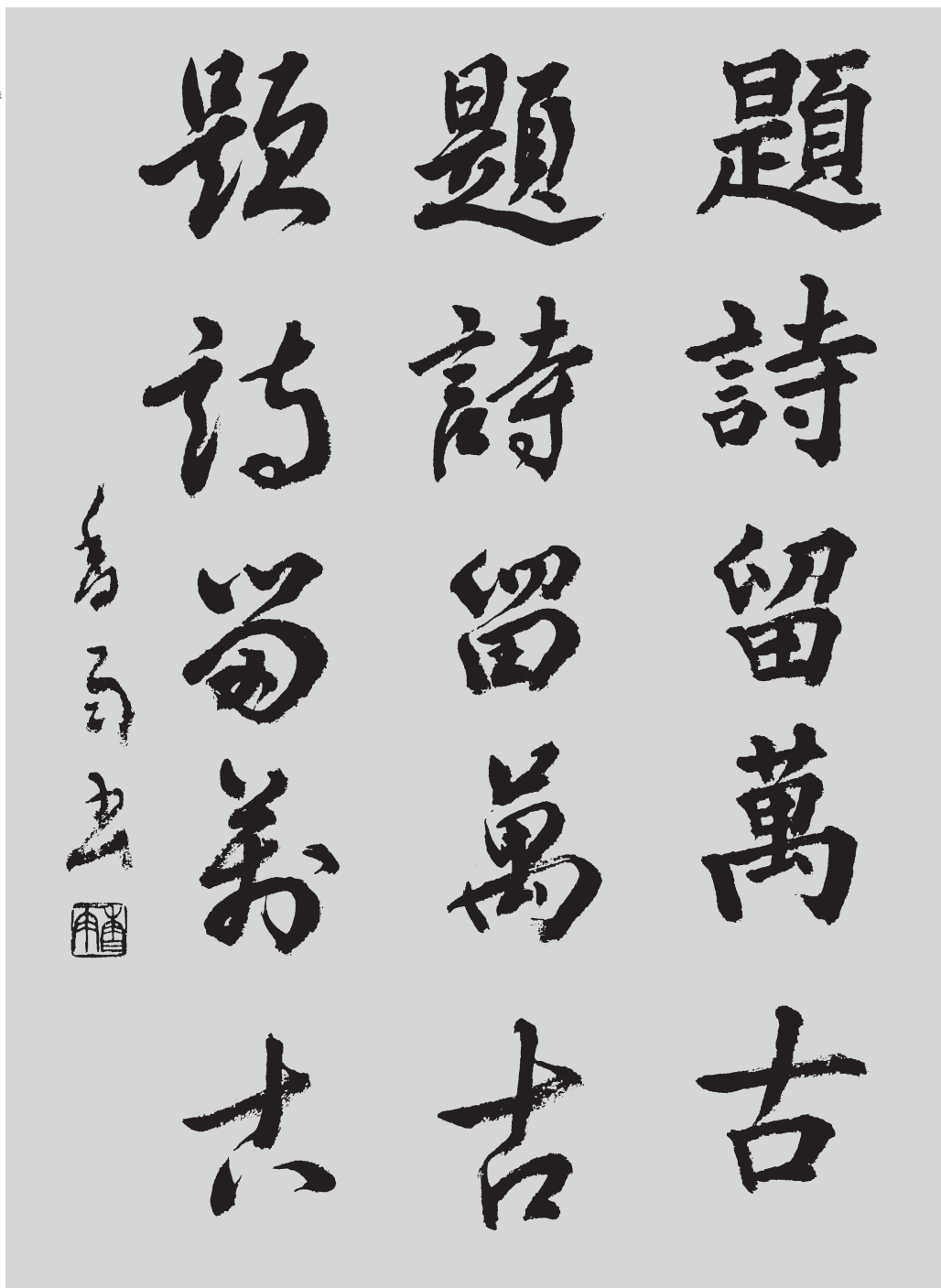
予告 (四月二十二日締切)

大空は明けそめぬらし百鳥のねぐらをいつる声のさやけさ (愚庵和尚)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

酒井香雨先生書

題詩留萬古(李白)
詩を題して万古に留むれば

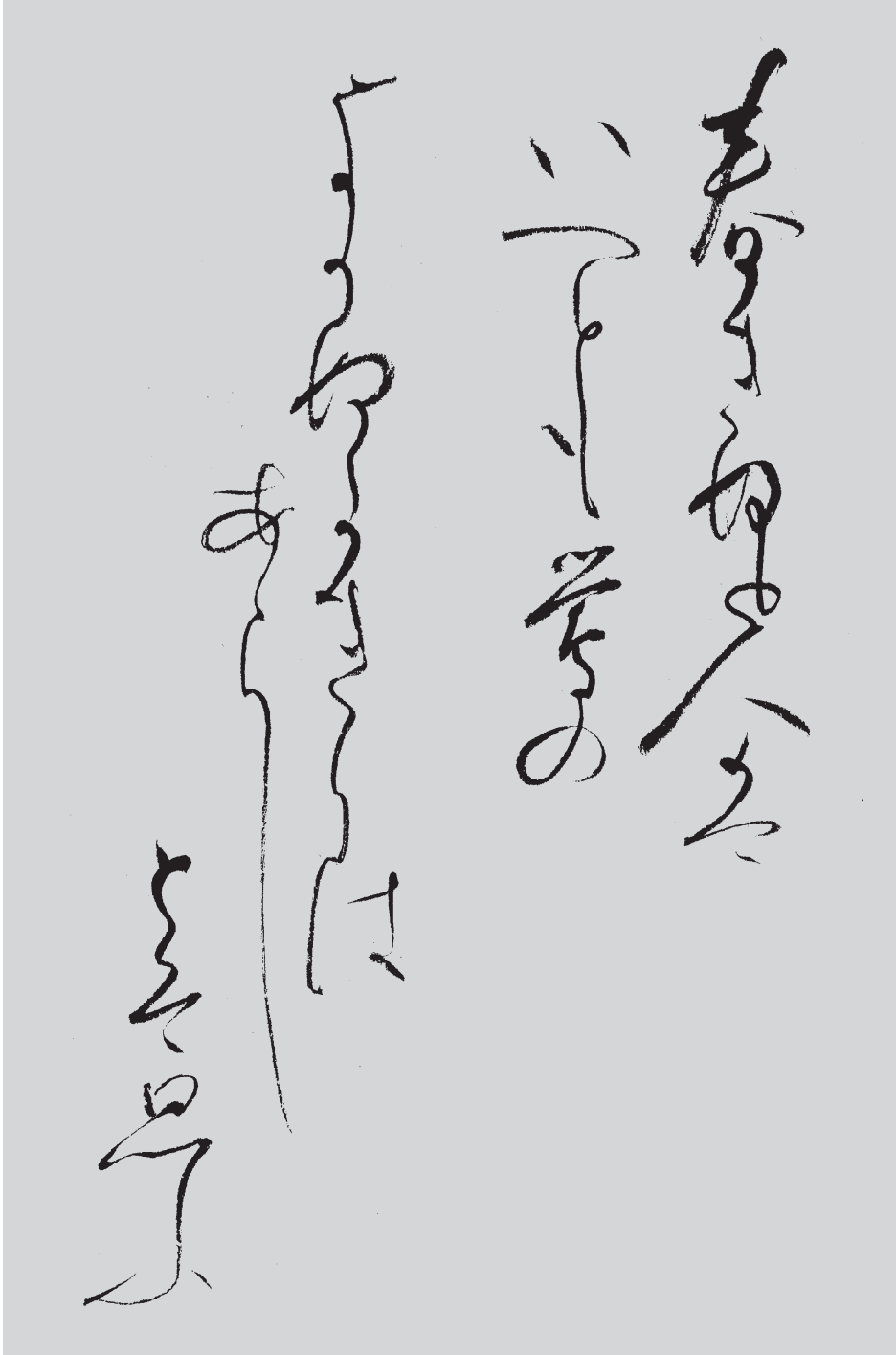


訳：詩を彫りつけて、遙かな未来に伝えれば、

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

高塚竹堂先生書

はるきぬと人はいへどもうぐひすのなかねかきりはあらじとぞ思ふおも (古今和歌集 壬生忠岑)



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

暖日黄金の柳(范成大)

訳：暖かい陽気に柳は芽ぶいてくる。



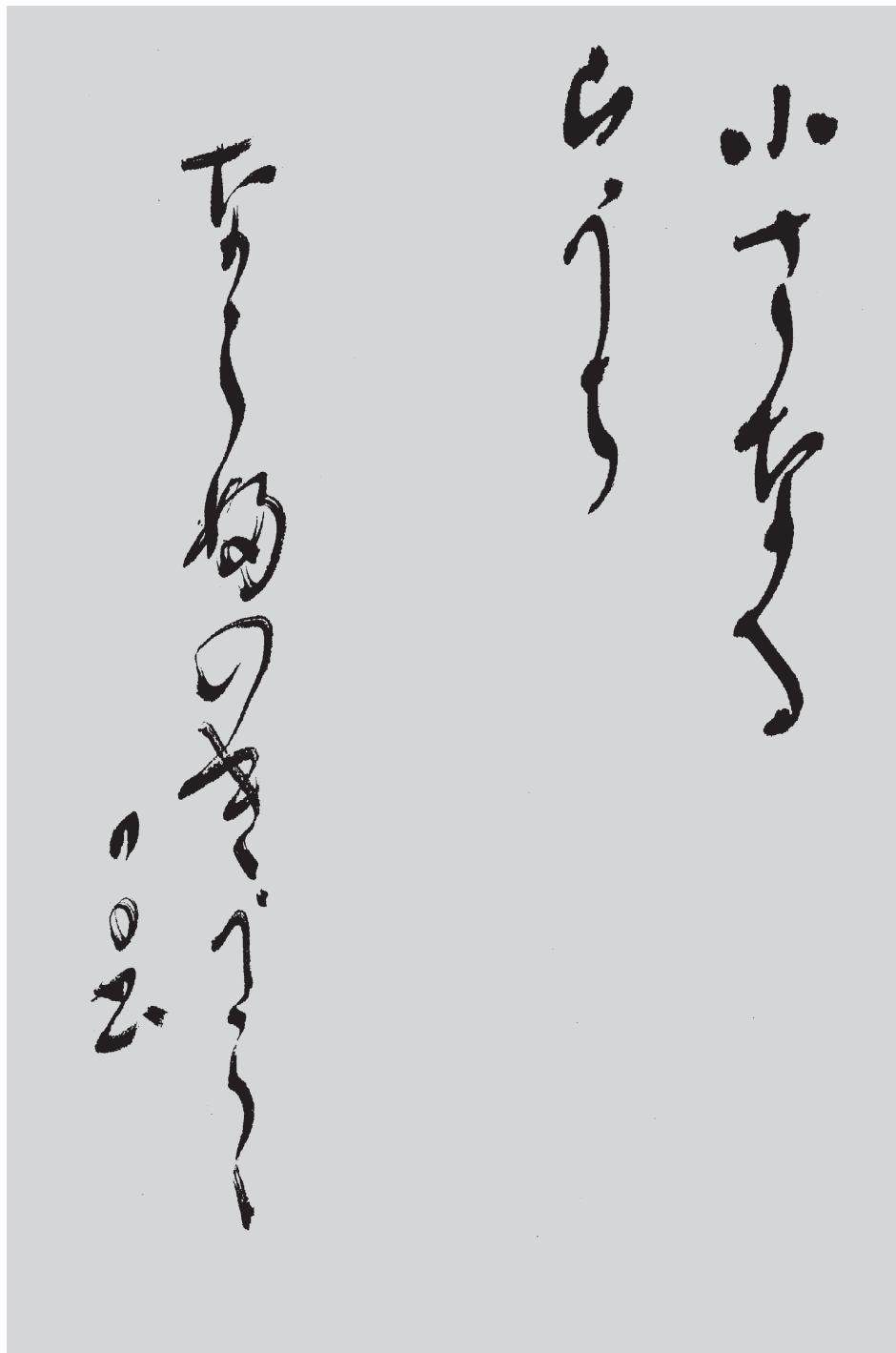
〈主画を活かして〉
「暖・金」の右払い、「柳」の終画タテ画はそれぞれ
各字の中心画、この画をのびやかにスッキリ書きた
い。この画で各字を活かしたい。



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

小さな山うちならふのきうらゝ (たかし)
小さな山うちなら婦のきうらゝ



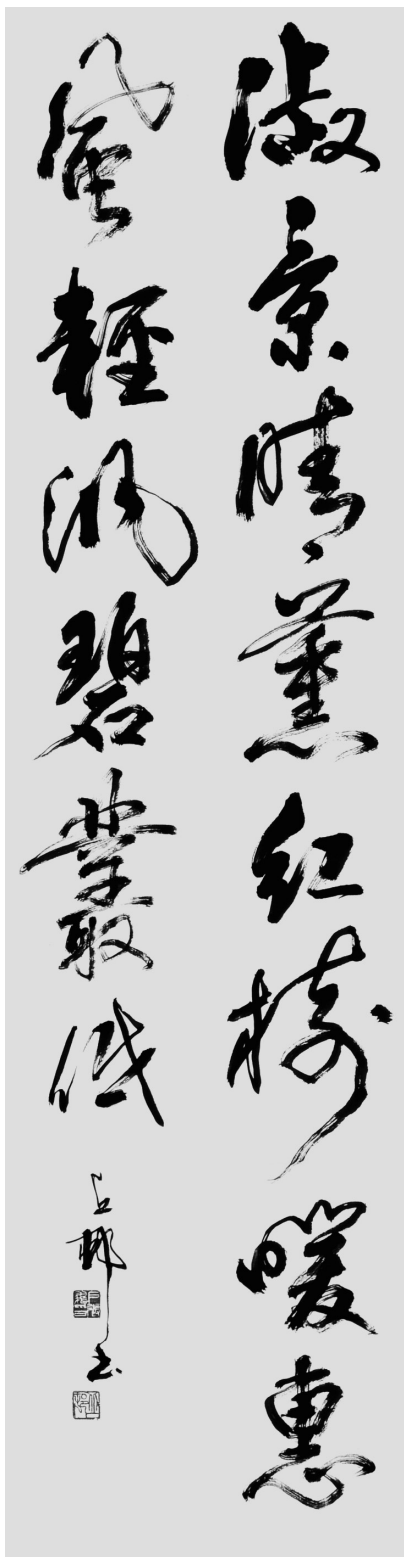
〈初段階者は特に練習を〉
速さ(矢印)の基礎用筆に習熟して下さい。印に強く当たり、弾んで次へ運筆します。また、「ら」の点に留意、チョンと置く筆意、重くしたら失敗。基礎練習を事前に何回も――。



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

戸張丘邨先生書

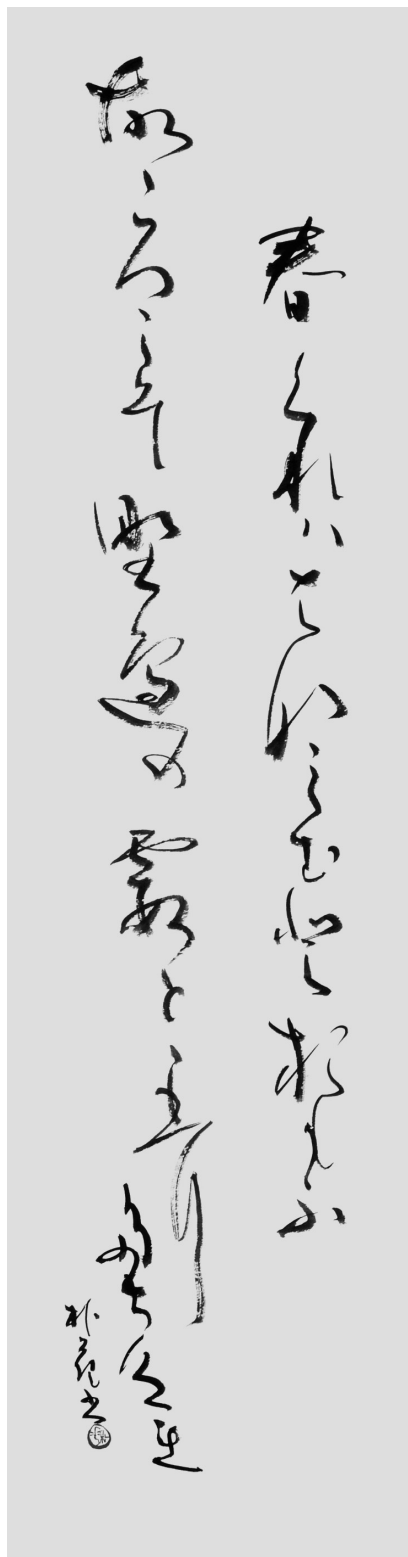
淑景晴薰紅樹暖 惠風輕汎碧叢低（馮延登）
淑景晴薰じ紅樹暖かに、惠風輕く汎く碧叢低る。



訳：春の景色は暖かに青天の花咲く木において、春の風は小草の青く茂れる所に軟らかに吹いている。

向山朴花先生書

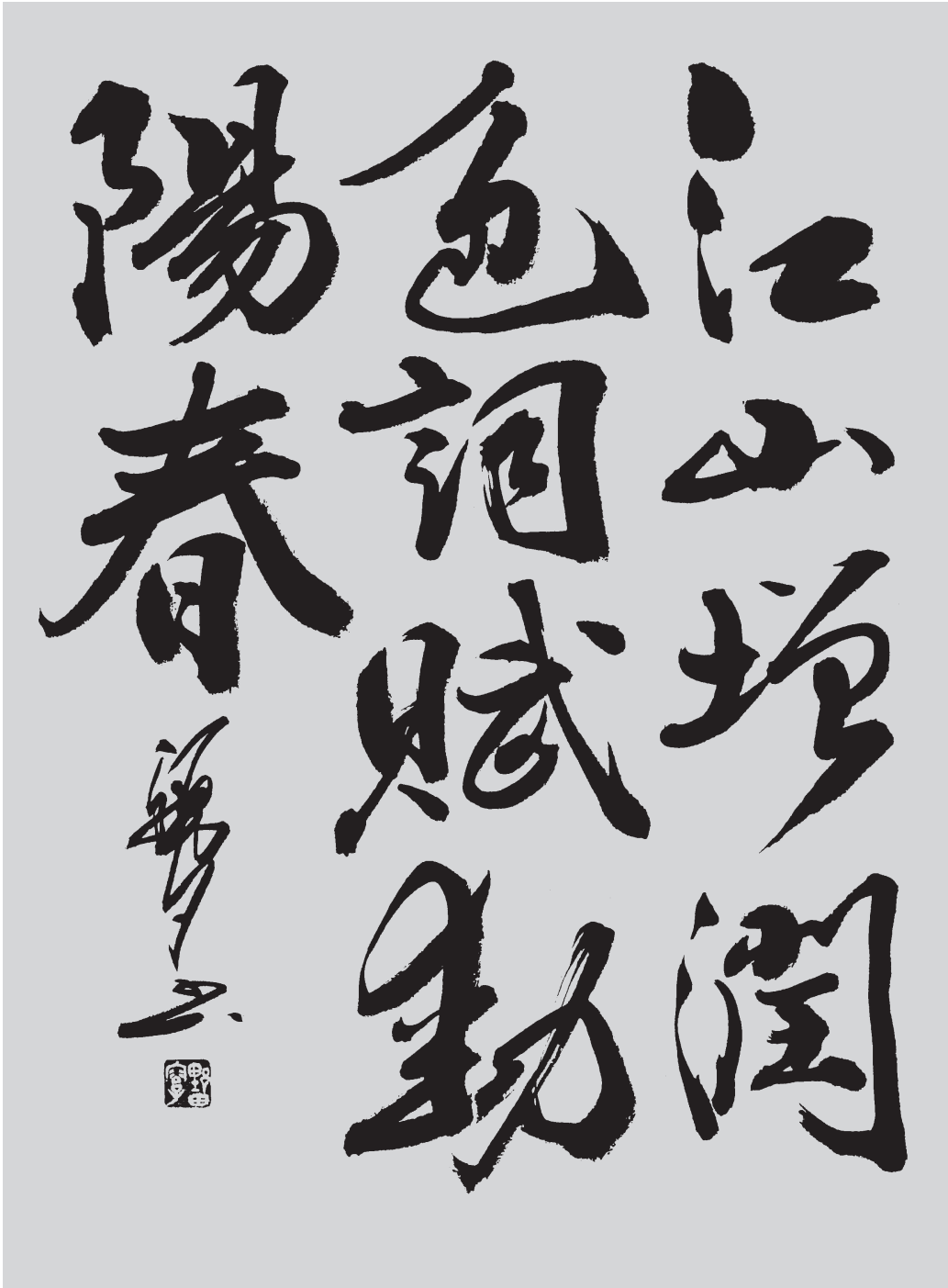
春くれば花見むと思ふ心こそ野への霞と共にたちけれ（後撰和歌集 藤原因香）
春久れ八者那三む登於もふ故、ろこそ野邊の霞と、も耳多ち介連



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

野田麗夕先生書

江山増潤色 詞賦動陽春（孟浩然）
江山潤色を増し、詞賦陽春を動かす。

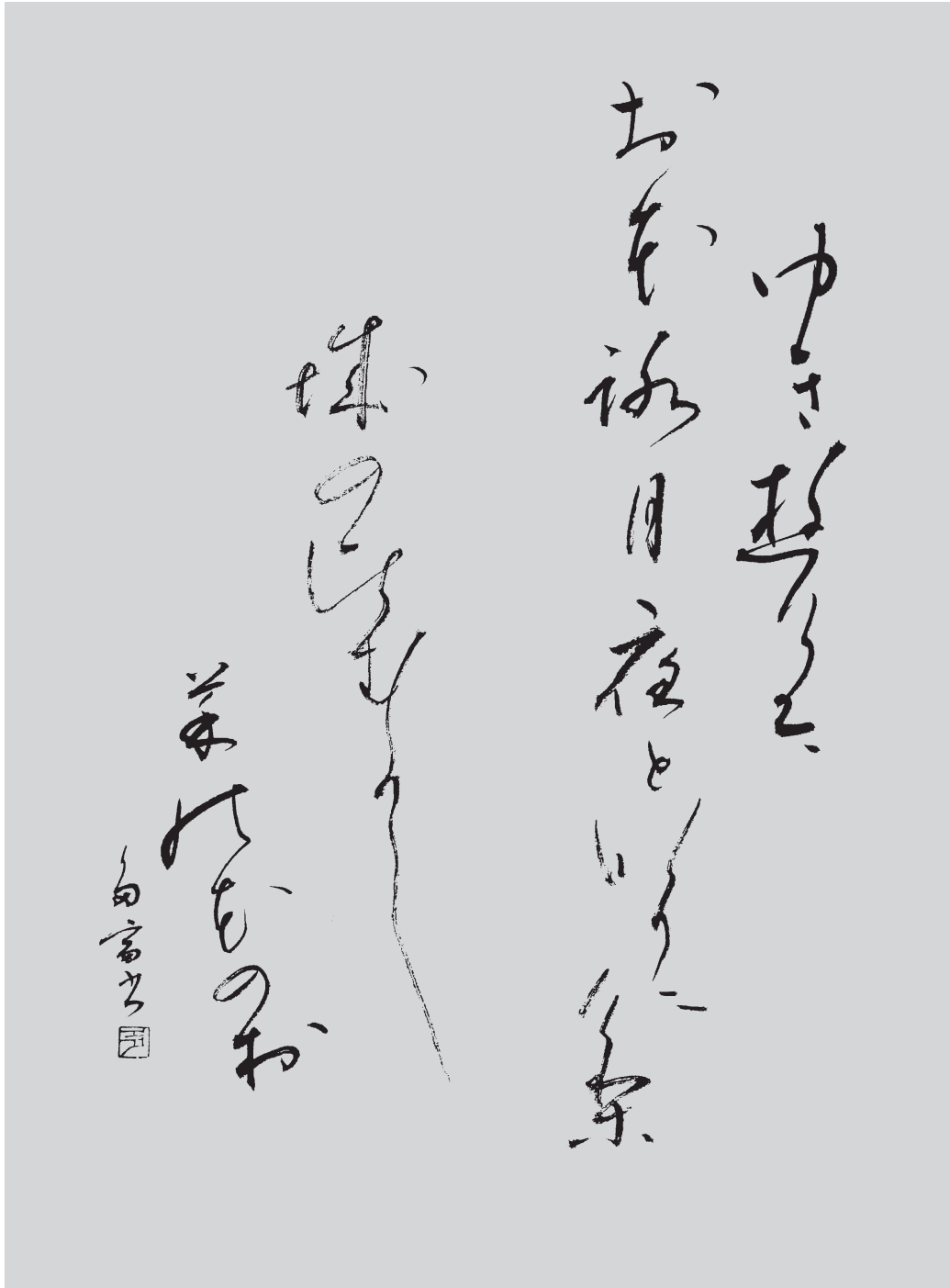


訳：川や山が美しい色を増し、詩歌は春を動かすのである。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

森 多富先生書

ゆきゆけば朧月夜となりにけり城のひむがし菜の花の村（佐佐木信綱）
ゆき遊介盤お本路月夜と那り二介梨城の比む可し菜能花の村



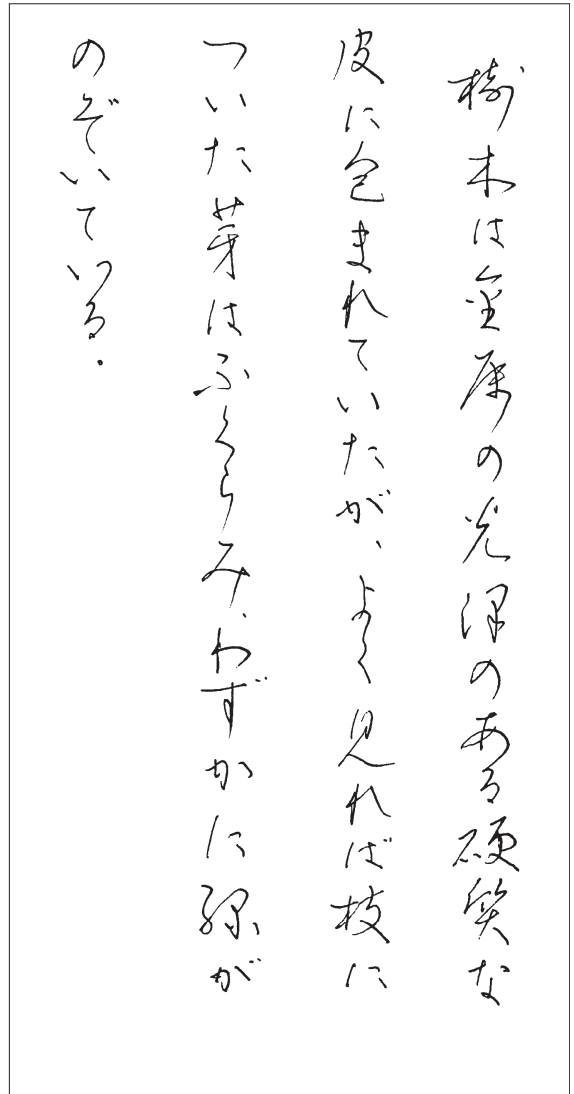
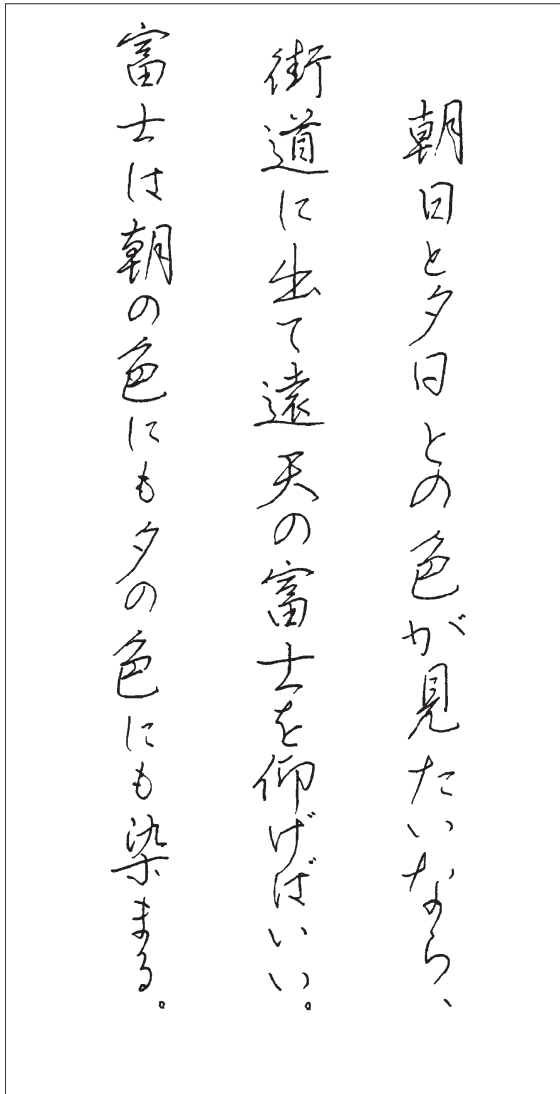
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

川上香蓉先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

樹木は金属の光沢のある硬質な皮に包まれていたが、よく見れば枝についた芽はふくらみ、わずかに緑がのぞいている。

〔浅間〕 立松 和平

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

朝日と夕日との色が見たいなら、街道に出て遠天の富士を仰げばいい。富士は朝の色にも夕の色にも染まる。

〔伊豆の旅〕 川端 康成